

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894900055		
法人名	但南建設株式会社		
事業所名	グループホームたんなん		
所在地	兵庫県朝来市山東町柿坪1-1		
自己評価作成日	平成24年2月9日	評価結果市町村受理日	2013年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2013年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

力を入れている点。 事業所からの外出は集団、個別を問わず積極的に行い、事業所への訪問者は大歓迎で歓迎し外部との交流を絶やさないようにしています。利用者さんが生きがい、張り合いを持って生活が送れるように日頃からの関係の積み重ねを大切にして支援しています。利用者さんと御家族さんの関係の継続も大切にして連絡を密に取り信頼関係の構築に努めています。医療機関との連携により、医療面の不安を減らし安心に暮らしたいけるように努めています。 アピールしたい点 利用者さんの笑顔。とても穏やかです。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

居間や居室から、築山や池を配した広い和風の庭園や広大な田園風景が見渡せ、利用者は季節感を感じることができている。事業所は地域へ積極的に働きかけ、小学校との交流は続き、設立5周年記念行事には市長初め100人近い参加があり、楽しんでいる笑顔の利用者の写真が飾られていた。朝来市風船バレーボール大会では優勝するなど、利用者は活気ある生活を過ごされている。習字・手芸・農園などのクラブ活動もあり、手作り作品は居室に飾られ、収穫の農作物は食事を楽しみあるものとしている。職員は、不適切なケアの積み重ねが虐待につながることを自覚し、常に利用者視点で立ち止まって考えるように努め、利用者の笑顔を自分たちの喜びとしている。立地的に難しい点はあるが、住民が気楽に立ち寄れる頻りになる福祉の相談窓口としての活動を引き続き続けてほしい。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 者三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示し来所者、職員が見られるようにしている。会議や日常業務の中で理念をもとに利用者の生活を支えている事を常に確認をしている。	関係機関、家族や地域に配布している「たんなん新聞」に基本理念を掲載し、事業所の周知を図った。内部勉強会では「理念のもとにケアがある」ことを話し合い、「地域とともに」ということに気づくなど、職員の意識付けに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時や畑作業時に近所の方から声を掛けて頂いたり、野菜等を頂いている。季節の祭り、とんど等の地域の行事や教室に参加。又、小学校のボランティアの受け入れを行なっている。	事業所行事には住民参加があり、散歩時の声掛けや地域行事への利用者参加を通して、地域とのつながりが深まっていると感じている。認知症サポーター養成講座への参加の呼び掛けがあったが、啓発のために利用者とともに積極的に参加したいと考えている。	事業所からは地域交流を働きかけているが、立地的なこともあり、日常的に住民が気楽に立ち寄ることは少ない、と職員は感じている。事業所や整備された前庭を開放する方法など、運営推進会議等で検討されてはいいかがか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお地藏さんの掃除やクリーン作戦に参加している。吹奏楽や和太鼓演奏の催しやバーベキューを開催し地域の人々が立ち寄りやすい雰囲気を作り心掛けています。月一回の事業所の新聞を各戸に配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回定期的に開催している。メンバーは行政(市高年福祉課、高齢者相談センター)、地域(民生委員、地区住民)、医療機関、家族及び職員で構成されていて、サービス内容や、近隣の情報を頂き、利用者の生活や運営の役に立てている。	2か月に1回開催。毎月活発な意見交換を行い運営に反映させている。今年度は利用者が会議に出席することはなかったが、メンバーと利用者との直接会話する機会ともなるので、利用者の参加を勧めたいと考えている。	利用者対象の交通安全指導を警察官が行ったり、日頃から定期的な立ち寄りもあるので、地域の一環として事業所理解を深めてもらうためにも、運営推進会議への参加を呼びかけられていいかがか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスの向上に係る事、感染症について市高年福祉課に相談している。又、困った事などは市地域包括支援センターに相談している。職員が市介護保険運営協議会に参加している。	「たんなん新聞」や運営推進会議の議事録は毎回市担当課に届け、また管理者が市介護保険運営協議会委員を引き受けるなど、日頃から担当課とは緊密な関係である。地域の困難ケースなどは地域包括支援センターとともに相談を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所として身体拘束は新入職員には入職時説明や会議で確認をしている。状況に応じ家族にも拘束に当たる内容を説明し身体拘束をしない事を理解してもらえるように努めている。利用者がふらっと外に出て行かれる時にはさりげなく見守っている。	市内6か所のグループホーム連絡会の研修を実施し、内部勉強会でも話し合い、職員は身体拘束の弊害を理解している。出入口はすべて施錠せず、利用者の気持ちを受け止めるよう努めている。入居間もない利用者にはさりげなく付き添い、気持ちの落ち着きを図っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時に高齢者虐待防止の研修を行う。又、外部での研修に参加し虐待について学ぶ機会を設けている。利用者に対してのストレスを一人で抱え込まないように職員間で共感しながら対応を考えている。	新任職員には「虐待防止」の研修を行い、外部研修や内部勉強会でも実施している。職員は研修後レポートを提出して日々の介護を振り返り、それぞれの気づきを介護現場で活かせるよう努めている。職員同士の支え合いの中でストレスの軽減を図り、管理者も働きやすい環境に配慮している。	

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用しているケースが1件あり高齢者の権利擁護、成年後見人等の役割について職員に対して会議内で説明をした。	現在制度利用者はいないが、「たんなん新聞」で利用者や家族向けに制度について解説したことがある。職員には制度を説明しているが、理解は十分とは言えないのが現状である。	必要時に制度を活かせるよう、関わりのある専門家や地域包括支援センター担当者などを講師に、勉強会を開催されてはいいかがか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明を丁寧に行なっている。入所前に利用者、家族に生活の様子を見学してもらったり、不安、疑問は契約時に限らずいつでも相談に乗っている。介護報酬改定時には説明会を行った。	契約時には不安点や質問に対して分りやすく説明し、費用等は実際に必要な額を例示するなど理解・納得を得よう努めている。空室時の体験利用も可能であり、見学などは随時受け付け、利用者のおだやかな利用につながるよう配慮している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常会話や生活の中で利用者さんの意見を職員、管理者が聞き日々のケアに役立っている。定期的な訪問看護師にも話を聞いてもい情報収集をしている。家族とはこまめな電話連絡や面会時にコミュニケーションを図り、要望を聞いている。	「たんなん新聞」や運営推進会議議事録を、家族に配布したり閲覧してもらうなど、運営状況の周知に努めている。利用者個々のアルバムを作成し、来訪の際に日常の暮らしぶりや表情などをもとに個別に話し合い、要望などを聞き取っている。今後管理者としては、家族同士の交流の場を増	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で些細な事でも言えるようにコミュニケーションを図っている。毎月1回のユニット会議を開催し職員の意見や提案を聞く機会を設け、利用者の生活の向上に努めている。	職員会議で広すぎる浴槽改善の提案はなされていたが、今年度全面的に改造された。利用者から「個別にゆっくり入浴できる」との感想があり好評である。行事などは職員担当制を敷き、各自主体的に企画している。ソファやテレビなどは、利用者の穏やかな生活を考慮し位置を変更した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	I ユニット2階に事務所兼休憩室を作っている。管理者が職員の相談に乗る事もある。職員は年齢にとらわれず各種資格取得に挑戦している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に外部、内部での研修参加を推進している。参加できなかった職員にも共有できるように報告書を提出してもらっている。各会議のまとめや標語の作成などを全員で取り組む仕組みにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム連絡会の合同行事への参加。事業所主催の音楽会に他施設を招待している。職員には実習、研修を通じて同業者との交流を深める機会を設けている。		

自己 者第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談で利用者、家族の話を十分に聞き、可能な限り利用者に施設へ来て頂き雰囲気を感じてもらっている。また、入所前に利用していた事業所を訪問し情報収集を行い、継続できる事は継続して行っている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安な時は何度でも相談を受け十分時間をかけている。困っている事、将来への思い等を良く聞き受けとめ入所する事に対する罪悪感を持たないように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所初期は実情の把握と要望の実現に向け、家族、主治医、職員と情報が共有できるように連絡を頻繁に行うように心掛けている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で本人が出来そうな事を見つけ、参加する意欲を持って頂けるような声掛けを心掛けている。家事や作業をする時や季節行事について教えて頂きながら一緒に、共同生活になじんで行けるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や面会時に利用者の日々の様子を伝え職員と家族が同じ認識が持てる様努めている。年1回バーベキュー大会を開催し多くの家族が集まれる機会を設けたり、面会、外泊も積極的に行ってもらう様に働きかけている。	
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の食材を毎日メンバーを代えて、市内、市外問わず、その日の様子に応じて買い物に行っている。入所前からの主治医やいきつけの美容室、喫茶店へ行けるように支援している。自宅地区の老人会に出席される方もいる。	毎日利用者とともに食材の買い物に出かけ、行き慣れた店では会話を楽しんでいる。利用者の馴染みの関係継続に配慮し、行きつけの喫茶店等には他の利用者も一緒に出かけている。誕生日プレゼントとして生家周辺にドライブに出かけたこともある。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事、レクリエーションや外出など一緒に行なう中で職員が利用者同士で声を掛け合えるように働きかけている。トラブルになりそうな時は職員が中に入ったり席替えをしたりしている。	

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も職員が継続してお見舞いに行かして頂いたり、他施設交流で退所された方に近況報告をする等、退所後の相談や支援に応じる姿勢を示している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接本人に意向を尋ねたり、家族からの情報だけでなく、日頃の何気ない発言や素振りから思いや意向をくみとり、出来る限り希望をかなえられるようにしている。	日常生活の観察を注意深くし、利用者の思いをどこまで聞き出しているかを会議で話し合い、希望の実現を図っている。ゆったりと入浴している時や居室での個別の会話の中で、真の思いを漏らせるのを受けとめるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申込時にこれまでの生活歴を聞くだけでなく、日々の生活の中で職員が気付いた事の確認や、生活上の相談は家族へ相談に乗っていただき利用者個々についての把握を深めるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、会議、モニタリングや医療機関からのアドバイス、継続して行っている行事の参加の様子を元に短期、長期的な面から利用者さんの現状の把握に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族との面談、利用者のなにげない言動、日々のユニットごとの話し合いや定期的なユニット会議で課題、援助内容を話し合い、介護計画の作成やモニタリングを行っている。	基本の見直しは6か月。介護の中での気づきを職員に促し、申送りノートで共有し検討を重ねている。新たなニーズを抽出し、利用者や家族とも話し合い、医師の助言を得て計画作成に反映させている。入居当初は1週間の暫定計画をたて、利用者状況に合わせて完成させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日常生活の言動、気づきを個別記録に記入しながら情報の共有をしている。会議で確認、整理をし介護計画への反映につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	冠婚葬祭、墓参り、自宅に寄る、個人的な活動の支援など、可能な限り、利用者や家族の要望に応じた対応をしている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急時の支援協力を消防団、民生委員にお願いしている。駐在所の立ち寄りや書道、フラワーアレンジ、ノルディックウォーキング等の定期的なボランティアの訪問や吹奏楽、子供の和太鼓クラブの訪問、市主催の元気づくり教室、有志の集まる歌声サークルへも参加している		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医が、そのまま入所後も主治医として受診している。通院支援が困難な場合等は家族と相談し、状況に応じて訪問診療、往診をされている主治医への変更を行っている。受診時、体調不良時は家族との連絡を行っている。	原則、これまでのかかりつけ医を継続しており、やむをえない場合は職員が受診に付き添い、受診内容は確認、共有している。精神科は、管理者等が利用者個々に定期的に支援しているが、家族の協力を得ることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員からの情報を元に、週一回の訪問看護やかかりつけ医に日常の様子を伝えてアドバイスを頂いている。利用者と訪問看護師と馴染みの関係が構築されている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には職員が面会に何度も行き、本人に安心してもらえるようにしている。退院の見通し、退院後の生活については、病院、家族から情報収集し利用者さんが安心して退院できるように心掛けている。	日々のバイタルや排泄チェック等、食事や水分摂取状況から、早期での状態把握により、入院回避に努めている。又早期退院に向け、家族からの情報や協力を得て、事業所として受け入れ体制の準備を進めている。病院関係者との密な協力関係が確保されている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた方針は家族に伝えて、同意を得ている。利用者の状況を家族、医師等の関係者にこまめに連絡し情報の共有に努めている。看取り対応時は職員間の情報共有と連絡体制の確認を行っている。	契約時に、事業所としての方針を明確にし、本人、家族への安心につなげている。利用者の状態変化に応じ早めに家族、主治医との話し合いの場を持ち、不安を無くし、常に状況を確認するよう努めている。方針に沿った職員の研修も実施し、チーム体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や緊急時の対応はマニュアル化し目につく所に掲示している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防団と合同避難訓練を利用者と一緒に行っている。災害時の避難場所の確認や食料品等を備蓄している。	年2回、定期的総合避難訓練を実施している。職員と利用者全員が参加し、実際に消火器による消火訓練を行った。利用者の持てる能力を活かし、役割を担ってもらっている。近隣住民の協力も日頃から依頼し、特に夜間における協力の必要性は重視している。	

自己 第三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した対応を心掛けるように、会議や日々の申し送りで確認している。 講師を招き、職員全員が接遇についての研修を受け対人援助の基本を確認している。	利用者一人ひとりの特性を把握し、職員間での共有に努めている。利用者同士の関係性、入浴や排泄時での声かけには、特に注意している。接遇研修により、職員個々の意識の徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事、外出、家事など日常生活の場面ごとの意思決定しやすいように声掛けを心掛けている。本人の希望や思いは会話の中から読み取ったり、本人が言いやすい環境を考えて工夫している。言葉で意思表示がしにくい人には表情や行動で読み取るように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特になく、その時々をどうしたいか希望を聞いたり、選択をしてもらっている。本人を見守りながら状態に合わせた対応や希望に添えない場合はきちんと理由を説明するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みの美容室、理髪店の希望がある場合は行って頂いている。利用者の好みの身だしなみを季節に応じてして頂けるように、家族とも相談しながら働き掛けている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望を聞き献立を一緒に考えたり、食材の買い物と一緒に行き良い材料を選んで頂いたりしている。調理から後片付けまでは利用者の能力に応じて出来るだけ参加してもらうようにしている。利用者の意見を取り入れてそうめん流し、バイキング、鍋や外食を行っている。	畑の野菜を収穫し、食材に利用したり、献立を工夫するなど、利用者の能力や役割を活かし、活躍の場を持つよう工夫している。職員も一緒に食事し、利用者同士の関係性を配慮した座席を設け、職員共々会話が弾み楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の不足がちな方には水分チェック表を作り、好みの物や量、温度で水分を摂ってもらうよう支援している。献立について注意が必要な方は医師のアドバイスや利用者ごとの形状を職員で検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が声を掛け、歯磨き、口ゆすぎをしてもらうように努めている。義歯の管理が自分で出来ない人は就寝前に義歯を預かり手入れをしている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事の前後にはトイレに座ってもらうように努めている。本人の行動観察やさりげない声掛け、誘導をしている。夜間トイレに行くのが不安な方には自室にポータブルを設置して応じている。紙パンツから布パンツへの移行も実践している。	本人のトイレでの排泄をできるだけ支援するために、タイミングを見てさりげなく声かけを行っている。やむをえず失敗した場合でも自尊心への配慮には十分注意して。夜間は不安な気持ちを優先して、ポータブルの利用を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者に応じて、朝食時に牛乳やバナナやヨーグルトを食べてもらい自然に排便がつくようにしている。チェック表をつけて便秘になっていないかを確認したり、毎日簡単な体操をしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夕方から夜間に掛けて入浴してもらい生活のリズムを整えるようにしている。入浴時の体調の確認や介助が必要な方に対しては安心して入浴できるようコミュニケーションをとりながらゆっくり行っている。	夕方4時ごろから入浴してもらい、できるだけ普通の生活リズムを継続するようにしている。職員との会話を楽しむなど、個々の時間を大事にしている。その際に、利用者から出た話題は記録し、職員間で共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の気分、体調を把握しながら一日にメリハリがつくように活動してもらうように心掛けている。休息が必要な方には適宜声を掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ケースに個人ごとに入れ服薬間違いがないようにしている。職員が服薬情報をいつでも見できるようにしている。本人の状態について情報交換をし主治医、訪問看護に情報提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は利用者ごとの好みや得意な事の把握に努め、一緒に楽しんだり、共同作業や役割をお願いした時にはお礼を言うようにしている。状況に応じて干渉し過ぎにならないように注意している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩、買い物、地域行事への参加だけでなく、集団や少人数等、すべての利用者さんがまんべんなく外出出来るように利用者と相談しながら外へ出る機会を積極的に設けている。	散歩や毎日の新聞を取りに行くなど日課にしている人もいる。地域行事に参加したり、食材の買い出しなど、全ての利用者が同じように外出できる配慮をしている。玄関前のプランターの水やりや畑の手入れなど、普段の生活と同じ身近な環境を重視している。	

自己	者第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の生活では現金が必要ない事を説明しつつ、希望される方は本人家族と相談の上、少額のお金を自分で管理され、買い物や外出の際に自分で嗜好品を購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいという要望には施設の電話で対応している。携帯電話を所持している方や家族や知人に手紙や年賀状のやりとりをされている方もおられる。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓からは庭の景色、周囲の田畑や近隣の生活の様子を見渡せ、四季を感じて頂いている。また、庭の花を生けたり、季節に合った手作りのかざりをしている。共用のスペースはそれぞれの利用者の場面に合わせ居場所が確保できるように心掛けています。	玄関や居間は和風建築の趣で「我が家」の雰囲気がある。窓からは、広い庭や四季の移ろいが見渡せ、ほっとできる空間となっている。浴室は落ち着いた個浴に改装され、さらに心地良く入浴できるようになった。台所も利用者が作業しやすい広さが確保され、すすんで台所に入られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、テーブル、小上がりがあり、気の合った利用者同志で会話を楽しむ方、趣味をする方、家事をする方等お互いが干渉し過ぎない配慮をして好きな所で過してもらっている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所以前から使われていた、タンス、布団等を持って来ていただいている。こたつやテレビを持ち込み居心地良くされている。持ち込む物に制限はせず趣味の物や位牌、運動器具を居室に置かれる方もいる。	和風や洋風など思い思いの家具や調度品を持ち込まれている。帽子や洋服などおしゃれにこだわったり、趣味の道具が所せましと置かれていたり、個々の個性があふれた居室となっている。利用者自身が思い思いの部屋づくりをされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかる事わからない事、出来る事出来ない事を見極めさりげなく対応している。トイレ、居室などは必要に応じて利用者が混乱しないように目印を付けたり、人形を飾っている。		